# 活語彙

六七

831
11
12

麻行上四段

活六七

六七まや

○活六七

活[redacted]語彙 麻行上四段 六七

○

麻行 四段

五 あむ 編 具中十 編ヨ造テ文ヲ亂ル句ヲ 編 元阿

古 別離 [illegible]つくし[illegible]あみんと[illegible]

園 十三ノ十九丁 [illegible]あそのそ[illegible]の[illegible]を[illegible]て 門[illegible]を見い[illegible]の

おみを いそのあそて[illegible]（水 浴）（編ニ浴ヲカテタリ）

一 中二段ノ あむ

園 廿二ノ 廣文 五十七ノ丸 せうしのまいひめるてそこしものかそうしいやうてさふれ

ぬへうちうしうて おそれあつむらんうし [illegible]つ[illegible]命[illegible]あみてそ[illegible]

同 七 かミ [illegible]ほいあつミめれつやめ[illegible]のひ[illegible]

枕 一上廿のう [illegible]くとつ[illegible]でころ[illegible]あまげる

五 あつむ 赤

おそしてきてしうちあつミてこの[illegible]をうる[illegible]ぎらりしのつる

[illegible]いき[illegible]まそちどいといつくをぺうしあらび 宇治拾 一ノ七十六才

もあるちあるのゝさきハあつミて元の[illegible]めれそとうるハあそれそ

をのとり[illegible]めり 園 月 五十三丁 [illegible]のをあつミられハ 又 五十八丁 [illegible]しき[illegible]

あつミて 因様 十六丁 おそてあつもらんり 又 名 五十丁 おそてあつむ

空穂 藏開下ノハウ 九の[illegible]のそハあつミて[illegible] 源 サトヌ 廿ウ おそれあつミて 又 四十三オ おそれあつミてみそうる

〔陂〕 中二段 あふつ

佐 四 あもをそ

枕 異本 一ノ一オ 春はあけぼの[illegible]ちうてあるいは[illegible]

[illegible]やう[illegible]の[illegible]しつあつミて[illegible]

そのすそくさぬひきさる

枕 一ノ四十才 はをとしあつミて

[illegible]をうし

一 あつだむ 赤

記傳 卅二ノ四十四ウ 赤ぞえる 空穂 藏開中 四十三丁ウ うつしをみ給へハ

あつむえへるさ[illegible]まうきてのさうり

あつむ 熱 皇極紀

熱 アツクルイキテ 崇神紀

帝國圖書館藏

大正 4. 2.15 購求

一あぐむ　唐仁記　上十九ウ　政長モ名大将セ討ニ弱え最後ノ事ナレバアリシテヤ有ケミ義説モ（信玄云　倍ノアソ　洩ノワブル）長蔵儀ニ目ヲ送リ白月モ中白ニ成ニケリ

神代紀　踟（アグム）

大正 4.2.15 購求

---

あさむ　語略云他ノ浅慮ナルヲソシル詞ナリ。訛諍　又嘲　信明集　己の人あさむくらん世のしれ人

あさむ　（濃略云　ともかきなり）物ノ分ニスギテ過ヒノ外ナルヲ見テオトロクヲ云。驚歎　著十　其人ともおそておもろきあさむ

。あさむ　驚

源若菜　下廿一オ　めてあさき　うつほ俊蔭　天下の人呼びあさこそ其くそ俊げ大さんじ（あはぬ）

後撰恋五　上　早一略　法師の木のみどりをしねすこれを見る人あさりけり

あさてよのそれもののうたゝかゐるあや宇枝さへみてやせき心

あかてぬふちらんよとハふ子

あさみあそオトロキアユミ　宇治拾一これ見てよ　まことをこなりとあさみあひけり

あさみさてぐオトロキサワグ　宇治拾ハさて驚くはとる　人々ことのしりあさみさてきあひけり

訛るそ　ナルト聡ろそナキトアリ

若菜下廿一よろづのことをつけてめであさこよのことくさそあまりしのあま君とそさいさい人ないかゐる

源一上十九ウがくのおとくとおもしろし　作門本宮をあらしめまりて

いろゐるをとあさみ（感スルヲ）　さハグせのみそ　宇治拾一ノ五十オ　あつまり

みそろさえとあさみ鳥吉を　翁ノ舞ヲ見ノ感ヲタレ　同四ノ七十オ　栄大臣を

あけぐるみ一ろ引のあさみるへて一あさとおとさえあさきされたり

あるものあさましとしてる　同三上三ハウ　女房のみまり二十

よ人ばかりあさまうてゐて（アサミト見ル）　同土ノ十九丁　おほやけをハ

こそあるのこゝろくと　感　あさみ思ふべし

あさみのしる　オトロキモノ

驚異驚　あさとのすのとも

めどめつらみおもにて

あさとのしるちあ

あさともあさむ（カトウキナル）

宇治拾ニ我はともあさみ

マシメナリ

あさとのよ　文殊師経　時三　演説経の和　そこらさどきともすつるきていきちるてるも

車もかち人もあれハあそこく（あさみ）をぶいおどろきぶびあさ

なるものゝとてもあり（コノ例モ不可解）　一夏後五十四丁　車をおどろきあきそたちてをさかうちし

演柱中興記如法　おどろき　あさむ

・あきれたる 名義抄ら例えりやしみちまろして あきれたるといふ事も見ぬ物をいふにても
あきるると云おぼせと 平家物語 [illegible]へきこしあきれをこ[illegible]あきちるかをそり
泣いしけておもしろく[illegible]にも[illegible]いとをしう 栄花物語
さりとてもうちあきれたるもことにいとてやるせなし云之して

アタヘん下二

・あたむ 仇 国ニ 讎有（ソウミル）・字快 阿太牟（あたみ うらむ） 色葉 寃（コウ） 怨（アタム）
仇とてたてることを云し
慈円 カ 開居友 下 仏をあたむゆゑにもやうがこれ罪なるをも[illegible]め
神代私記 奸賊之心 阿多美奈古々呂
字鏡 快 心不服也 阿太牟 又阿太牟

・あたむ 色葉 蔥（アタム 寃也）

・あちきなし 図 嘌ハ 疋遥反 苑 萌 唐也 嗅也 不介留 又阿知万知 又止志 詩本 胡ハ 徒兼反
美也 甘也 音也 阿知万牟

上二あはれむ 憐
古事記 垂仁 御巻 一序に歌をあはれ ますこてあはれふかきことをいひても
面白ようとこれ限の[illegible] 頭注 但憐 大戻 方株 按 又云 背燈
若憐 係数月 ○ [illegible]に可憐と[illegible]
にあはれ 憐字をあはれ ろ と云と同心之歌を [illegible]の
あはれ[illegible]あはれを浦こくあはれのつきてあはれ[illegible] [illegible]
面白く [illegible]して あはれ [illegible]
類聚 [illegible] [illegible] あはれ [illegible] ませとして [illegible]
全書 [illegible]上 古葉の[illegible]に[illegible]つきてありて よある 古今集 仁覚
あはれまんと [illegible]ひろうれてたく思ひの せいくもあるを

・あふてこむ 国 躇 嗟ハ 上 帝 柯反 下 共 依反 躊躇 不踊之 負 而不止 已 牟 又牛止留
又 趣也

あやしむ不書

アヤフム良行下二段出

五あやぶむ 危

拾玉 六 建久二年閏十二月廿八日殿下於九條亭の西對へまゐる この御

法皇御悩頗大事にきこゆる時之 あとはをしといかでいかゝ思のまよ

あやぶまれけるけふのふみかな 新政 谷振入竹道を出る跡の枝の綱

思ひよりあやふさきかふもをくるゝと

あやぶむ出

散木七雜上 ふるさとへふかことの刀の刃をもあやぶむ人の心のあやぶまれつ

あをむ 青
字鏡 靘 䨼 上千定反下亡定反去阿乎弥豆志牟 ○ 䨼 靘 上足朗反
下亡朗反上伊太久阿乎美奴
落日冊一 三葉山さしてる天のをあをとこるなれはいつこともなくあをみわたれり

いむ 忌

いがむ 嗛 嘷 （名義抄）
嘷 イカム 犬ー也 運歩 啀 イガム 犬 口嘷 円 類聚 嘷 イカム 啀 イカム 童蒙頌韻 齗 キン イカム

いがむ 邪の斜。曲 節用 着 いがみぞ

いかもの

いかむ 十訓抄 荻原広道の本学大概 二之巻 よ 十訓抄 に 瞋 いかりていきまへ（もさまのつきそう）ト云処ノ注ニ 息まへ ハ 息すし の忍ーきをいふるてそ 怒ることとあるのー」

いかむ 霊異記上二十一 期剋 イノコヒ 瞚 ニラミ 眥 イキミ 嘷 ホユ 吠 皆以千加豆ヘ又 云伊伎ミ美

いきづむ 古今著聞集 巻十六 おのれいまりていまつてひらめんを知りひとせまへいつもかくのみ いまつらるりひ候めれはおのつしそれそれはこれは人あそうしとみそ心候ていきつみ 候ましかれはなりれいぬあそるりしかてよくくいきつまれいてひりつくされいへし イクミ 私

いくむ 神武紀 十四丁ウ 昔孔舎衛之戦五瀬命中矢而薨天皇銜之常懐憤懟
通證 八ノ廿三ウ 憤懟 イキトホリ 伊久久美 伊ハ発語 含也 懟本作慰 怨也 和訓栞 気含の義なへしさるへし 出雲風土記 上廿才 不憤 イカラシカラスと まあいりく 重 万象 秋鹿 いくましノ条 義

いさむ 勇 國 詾 訩 説 訟（三形同 虚容反 勇也 訴也 訟也）

[国語] 勇旅りの刀も いさゝまくさる 面して 勇なり（伊佐牟 又弥も止申須 又盈也）[illegible]

[ろ多ア千之] 高国程 同洞 あのかるふなるよ いさむまむ 面くるある 程やこ 去らん

[天文廿三年太神宮千代] 弱也 足実まお申ね 闘 ありてくふハそるゝこ 多侍や 弱のあちこいさつて そらく

[名義抄] 勇（イサム） 又作 勉 魚 忏 獷 揆 贲 驍（イサム 武也 健也）

佬 吡 咄 捍 悍（已上同）

---

いそしむ 勤、務（字彙 イソシム）

---

いたむ 痛 [国] 惻 減（ハ 悲傷之皃 伊太牟）○悋 悦（ハ 相恨也 失意也 伊太牟）○快（伊太牟）

（全文出 いたむ）○悒（於汲反 鬱悒 悒而直憂也 伊太弥 又奈久久）○慎（莫妙反 伊太度保留 又伊太弥）

宇礼不 [万葉] 弥久多のいたむ下る 木尊の麻衣 ミチコテいたむけれ あらまくうた

[名義] 痛（イタム イタム） 搽 懊 傷（イタム） 怏 憯 侗 毒 愓 痊 慟（イタム） 惻 疢 惛 惆

慘 悵 懆 悇 隱 懷 怮 悢 怜 劇 怛 慯 艱 酸 彫 憸（イタム） 愽（イタム）

憋 疚 怊 悰 愁 愴 措 疾 讟 耿 唏 歎 懫 戚 青 羨 惻（イタム）

いつくしむ 恵 寵

[玉篇] 被（ウツクシ） 寵（イツクシヒ） 華 帳 裏

[名義] 寵（イツクシ） 慈（ウ） 嚴（ウ） 仁（ウ） 寵（ウ） 恩（ウ）

矜 憐 懐 伸（イタ） 憑（イタ） 勞（已上痛也）

いどむ 挑

雅言集一ノ十丁 [illegible] いどむも人あまたさぶらふ御方のたまひしといひしかるやハ（相撲ニカケテ云ヘル）

[illegible] 咷 イトム 誂 咷 桃 挑上ら 宮仕のもとへハあまたあるもちそへし

りうちめといとまんこそ ゐいるゝめ 栄花月宴 康保三年八月十五夜月宴

せさせたまひてそ清涼殿の御前にちくさうゑて 左方右方中宮

みなうしまけしといひそめかしていとこ

てちくしともいはせぬふけるといとねるらし 枕五十三 隠そくさつ謂とくめでたるといひとこ

十六 あるを何くれといひとむる徒

いろいろにいふこと（いかゝいひけん）

（宇千五〇）詩（宇千五 有文君心好音 相如以琴心挑之 注 寄心於琴聲）

頗善 漢書 挑戦 決勝也

字典 挑ハ引也 撥也 疾也 弄也（ナブル）（史記項羽紀）

争フ意ニモ ヲリヽリ

從クサリヒ動ス意ニテ とより

伝三 もも 案内下 七三

注 撟 撓 敵ヲ求戦 古謂之致師 司馬相如

以挑動之也 謂ニ手若付シテあはつてあんとトラルレ弄サセトスル證ニアヘリ

いどるむ 管

雅集一ノ十丁 図 營 營 營ハ

三形同以丁役 瑩 二反 平 造也 衛也 部也 治也 歌護也

巨久利以止奈年

---

いとふしき 連ニ ヒト

いとふしき 憐 雅集一ノ九丁 絓 紀 イトホシミニナモ思ホス 他ノ労苦シアハレムナリ

図 若葉下 八十二丁 女三のこゝろいとふしきみていとなにおもひかけぬ人のあはれとおもふ

山家 それのそかいとふしとも あはれも人のなきまゝつゝにて

白氏 十ノ十丁 思ふ（イトホシミ）

いちむる 際 中庭

いちむ 辞

（山家）いちむ 辛き世に集まるのあまたあ寺を寄せむ おもしきたり老てをいりかねまつくり

いぶせむ

いばむ 毛聚 神武紀 毛聚居之 毛聚居之 此云伊波美 神光満殿 欽明紀 充満（イハメリ）

おそろしき あまてらし 皇極紀 年十三九 人多満而 又同廿七 白年纪 満 毛結 集 盗 皆

神武紀私記 布満ヲ之岐以波母利 満路ヲ伊保和乎伊麻三ヲ 旅ノイハマリ

丹九 廿五 長歌 アマゝリガト 悒 悒懐（イブセムトキ） 時之 かきいそるまことに 懐 かかえ なかるほり済くとつ

いやむ

（イヤム 召ムニテ キラフ ンラフ）

宇治拾 三ノ十六丁 国司はつくりて 国司も国司をはよれなれらるあいて かくいふぞと いやと思てきよれみを蹴せよなそといふ

やまむ 葉行下正

いやしむ

語彙 陵シムニテ 見シタスヘ

字 僦 鄙 俟セ 志年

字鏡 十三 仍寺侍ニクミ 伊夜之三只 文宣ミル丁ナシ

平家 一 せんくノもクダイハ フカクニテコソイヤシマレシ タウモクメイ

ニハ下文 ツノギアル丁ナシ

ふりもむ　宇治拾　三十三うけ人をめすをやとりもよえ尝なれい

雅集一萃

うむ生

---

ちまむ虫

うむ　字　膝ハ巨仁反、膜也　字苑　又大奈肉　亡　字典　膟　癢勿許幺切　音脘

膞　太平御覧　俗字　蔦蘋　音蘭　膁　膞ハ腫欲潰也　亡　膝ハ謂之膜亦裏膜　膝膜ハ膜欲潰也

永代節用　癰（うむ）瘍

甫遥切　音太炊

うむ績　万葉　拾　錦秋よそうってうみてをやはたちのうみの苧のをとや

うみらん　あさうきの初りてハ右子逆しと見え　（髪ニ績シカ示タルヒ）　運歩　積学　字類　うてぬきつみそとようむとも

うむ憂　上本ニ引ル男之子ニヨレハ一種ノ詞ナル也　古今　あすのことも猶こくあのうちをとなるを　せそく二とくるなそふ　も

うむ熟　金葉　秋上　人をすむ人のさてうしてあうなくるをとうてぬなるらむ　うつる　（讀人不知）　ちうくれむつりるとえは志福もそくこえろ

おをまそとせてうられにょあう

おもちうつうみうら

・うむ　倦　運歩　倦（ウム）

・うゑむ　[illegible]　[illegible]　親子　心うく[illegible]
宮の御方[illegible]しうらみ[illegible]

・うしろむ　[illegible]一ノ下六ウ　[illegible]おほろ[illegible]うしろむ人のなりしきさなくハ
うしろめたき[illegible]　同二下廿オ　[illegible]を思ふうしろ
もつきするはあんあつけん

・うそふく　[illegible]　嘯（ウソムク ウソフク）　新撰字鏡　嘯　蘇弔反　歗　字同　宇曽布久（[illegible]）

・うづむ　埋　運歩　埋（ウム）
物ノ内ニ物ヲカクスヲ云　宇俊蔭　うき人を埋むまろうのかくるゝも風吹松
[illegible]　出羽弁集　それをそれあとかくしうつれぬなとうれ
のうしろ

・うそゑむ
スコシ笑顔
シスルヲ云
愚管抄四
花園左大臣ひとり
うそゑみて揖して

---

うつくしむ　寵
空穂　俊上四十丁　見る人ごとにうつくしうて[illegible]
いつくしむ　枕八ウ　をかしけなるちごのあからさまにいたきてうつくしむ
ほとにかいつきてねたるもらうたし

うとむ　踈　運歩　踈（ウム）　疏　同

・うとむ　[illegible]

うしべなむ　諸（続紀廿六）圓天地乃宇倍奈弥由流之

ふへちあつし　醱をも

うしむうしむ　綣紀　いまこうむらしく志れまかスとして

ユ・うらやむ　羨　字（中手ノ）有嫉妬人ノ讒天皇ノ　嫉妬ニ合ウラヤミ　運歩　羨（ウラム）　字　快（於言口反去）

嫉也　強也　心不服也　宇良也牟　又阿太牟　又伊太牟

・うらめしむ　字（中甲）悕ウラメシミ　摩頭ヲ抓魚シ悕界　字（四ノ十三ウ）懇ヨソサレハウラメシミモ　蒼蒼根ニ合

・うるむ　運歩　瘖（ウルム）　青黒（ウルム）　黯（ウルミ）色　杢檮次のやとトあるを　憑人妻ニ為（ムル）形為るを

うるむもうつしもつきしつる人まちこれのもとよろく

秘名抄　瘖　字流　無以杖撃人　其皮膚起青黒

倍友云　正色ヲ失ヘルヲ云ヘリ　漆彩ニウルミ朱　伝フモコレニ　うるかうるけ　ナトノうる也ヘシ

○うるはしむ 愛

国 萬葉 梓弓末ハつまをりて（うるはしみせよ） コノせいハ座行変格ノ語（コノミハ賤シミストノミナリ）

万六 大字流波之美 伊豆流 さわりなき神ゝ ありんとおもへるのあやうさ

西郡紀 宇流波志美毎布

神功紀 仙記ニ 庭文交ヲ宇流波志不

---

うれしむ 嬉

---

・おそろしむ （コレハ外サ二ノことあるなり）

国 源氏夫忌（障イ） たまくらをくけてくれハおそろしみたや

たひまりしぬるつのうとより

○おぼれむ 老

国 （ニほくむこあ） おいそこうらて あやめのころも 大楠の ちゝみえをさゝもうけてまかる

まくみおもちちるもさらぬ

・おそつむ 思峯 いろしのまみをおそつむ（オチツリモルヲ） 山里ハ鏡のとめるちきるらん

おぼむ 景行紀 愛（オホミ ウツクシ）

あむうしむ　憂切

かむ　噛

カモス罷

・かむ　酒ヲ

字鏡　醸ハ造酒也佐介加无（サケカム）　上字体代る

○かむ　鼻ヲ

遊仙窟　群本ゑ鼻を取出しても　ちゐくそちとして　和名　擤ハ俗云波奈加無

源　總こゑしもてうちかみて　色葉　擤（ハナカム）以手去涕也　真木柱　ニウ　ちゐちゐちゐちう

きこゆるにはなうちかみつゝありけり

かいぞきせる

・かいぞむ　枕三十ノ廿　ねおきたる顔もいとよしと思ふある人の局に行きて

かいぞきしてすゑたるやゝもすればきこりつゝ

栄花ノ七　きいまのものことゝ思ふ人のこと知らせたる人こそのたまふらち

かいぞきのせしてそれはいかにもいやしきそのあたりなる

かいまみ（下二出）

かいだく（二出）

○かいまむ　四　かいまみてけり（初段）　大和物語（十三）　ひさしくいひわたりけれど［illegible］　かいまめば・更級　うちずくかいまむ人のけはひ

していとうとくまのつまり　竹取　やうのようにしてとりつしょうりのぞき

かいまみしき　伊勢物語　六十三段　女男のやふなるいまそかいまみをするを

コハモト垣間見ノ意ニテ体語ナルヲ後ニハ用語ニモツカヘル（己）　日本紀　神代下　廿三ウ　知天孫

（已ニ旅語ナリ）視其私屏（ミシテニノコトヲ）と点をうつこれも正しくはかやてこうとよありしとあつく　通證　廿七ウ

宣賢曰覗其私屏（イハニ私屏ラハ）言垣間視也　私記曰加支末美多末布ト四ウ

（己ハ用語ノ格ナリ）　（己ハ用語ナリ）

ウツホ三　かいまみるはいまうしのはさりつるをされは　同月　これをかいまみせさせよと

のへ屋ゝまつふ　同色　はめしさうのかいまみくしけるを　かいまみてかいまむ人の

あづま屋　かくれして

・かきうつむ　康資王母集　まへて君が形見としほれるものならまし

まてるふうつむあまのもしほ草　陶ハかきつるとや見ん

康資王母集　此沙月まで方位を法をかくるを修めて法りいつくいあめらし

・かきまさむ　通證廿七ノ廿ウ引私記　加支末美多末布

---

かくむ　四

葉月末　蓮月尼　そのつまやこうするともしきいあすきりこむつめのいるを経

葉月束あけひかりしおりとこそて

・かーとむ　四　悴頓ハ　二形同條季友　容貌痩　豆二加留　又可志加牟

かしこむ　恐　四　惶　加志古年（毛宇知）　ともく

かしこまる　又うべなうさ

かすむ 霞

かぞむ 数 書中十一 他鳥乎来晞 数晞ニ今夫二 晞都流 数阿良 紀又宣 数（カゾム）（数流 カズメルイツハリコト 妄言）

異名 倭カタチムシ 字 倭ハ字定反去 論也 数也阿佐山牛久 又架矢ハ牟

又伊豆政留 宣積 五十二オ あまりくざりれ兄あいかぶるべししと

いひうかぞむ

かきちらむ 万十六ノ三オ 題詞 今貧死相敵（アヒカタキナム）

かたじけなむ 辱 宣 辱 弥

かなしむ 悲

かれそむ 枕十ノ九うあやしうかれそそろものゝあはれさそふべくまひうてとあまうひうふ

かるむ 源柏木十オ このよそそらく思ひ入ぬことゝむすりうゆれへのちの世のつらをさこし

かるらんやと かほもと 玉ノ小櫛三十三オ つらくるまそけのあるらむ

まうむ 字 咆勃ハ 呉盛ニ 去和名志又支可牟

きざむ 刻 〔宜〕中ニ情意ヲ讀ル 同於刻ニ舩ヲ 刻ジニサミ 〔堀〕鉄をもてきざむ板の裏を

・きしむ 〔物〕二ノ二十 きしのあるは石にあたりて きしきしときしみする 異本にか きしきしと
きしれるより 〔ものの名〕 つまへなるしもきしむそれは
〔永代節用〕 攑 きしむ 滑わるならずる之
〔正字通〕 閲 俗字 音澀 生澀不滑貌

・きさむ 播磨風土記、伎須美野 右号ニ伎須美野ト者 品太天皇之世 大伴連等 請ニ此処ヲ之時 喚ニ国造黒田別ヲ 而問ニ地状ヲ 爾時 對曰 縫衣如ニ蔵ニ櫃底ニ 故曰伎須美野ト

きさむ 〔源〕 あら夜よききさむあなすの 空ハ ありさまよそをそをとせつまし 所怪

すぶむ 蕃 〔玉造〕 面黒 歯黄（キバメル之） 〔字鏡〕 一貌 口なら波世弥支波み年 〔幼〕 未ウ 江のきハらるる
けそひとるたちす 〔和名抄〕 黄ノ瘡 岐波無夜菓比

・きらつむ 下二段 未 〔詳〕 家隆集 膳 饍 キラタム 全訣ニイロフ

くむ 四段 〔運歩〕 汲 水 酌 酒 斟 同 䣱 同

ガラス使用

くむ 組 運歩 組ソ 組テ

・くむ 汲

くもる 下二段

曇 くもる 備ね いろかの花をくもらせてうちきらしハまさのきそこえ
（らう花開 上二）うれのくもるいとをよくのこゝてはらそのをさゝてこのちるかる
おしくらてかすいろかのよ 枕 三廿三 くもらくでのかとおかしくえてつらいとあるらぞく
らうちるとくもるノ子ツ羽クゝムも羽ニテクゝムゝ也 吾子をくゞめ云のたつむら今
枕五十三 くもしてからくさてすゝめる 上下 ○又下二段 今案ニ …… 種ハ

・くゝむ 裏

・ぐゞむ 屈 枕草 運歩 含 喞

・くちひそむ 字 吻ハ 徒阿徒陀 二反 口巻差良 口加牟 口比曽无

・くちひそむ 上三見エ アケ四十九 口ひそそ …

・くひハげむ 字 顩ハ 巨今反 上切歯怒也 久比波介无

・くるゞむ 宇治拾 十三ノ十六 ひとつの小辛櫃のやうなる石のありて房をうちうけてみれば小石をもてこの石をくゝみきさくりてきみくるれハくるくるまるとるをそれハ金色になりぬ

・くまむ 桜井基佐 桜木柳 さくら花をくまきの柳 一つにかすむ くもむはまの 若枝

読安琵 六ノ三 くちをさめをしくさく やくちをて 美九口さきえて

くやむ 臨

ぐそむ 枕七ノ四十八行 くもしぐり行あひのかしとノ注 くもみ おちあひて 常木やうに流けつき
くやみつかんとあるとも 上見エ 穀しかり 上同じきノ注ニヤ

・くるむ 後拾遺 中 すやのなきはあてうちきせけりいとをかしくくゞみて
わきまへせちとせさせしゝそいろつけるもののあつさいつそうをえれハ

・くゝさむ 枕 くものくさのまてしくゞさこへる

ガラス使用

くすしむ 甚 運歩 奇（クシム） 聞（円）

・くろむ 黒 [illegible]（サイ） まつくろにくろみわたりていとしくもつれそひけふり 狭衣 くろくこそあ[illegible]
[illegible] くろくろとくろみてやつれたれハお住くのさしへるめさハ[illegible]としもこそ[illegible]
夕顔ノ十 かしくろみやつれる[illegible] ○服喪
ウスモ サ [illegible]上人をもてひろくろ[illegible]

・くろばむ 宇治拾 四ノ三ウ くろばみたるさいてみやく[illegible]しもせう

・くさゝかむ 久ノ三十オ きしめまつけさうひてもすゝ[illegible]ハさうしゝてひきさくしけさうハそ[illegible] めんもまいらし

---

くさばむ 草色 かけろふ日記 巻中 あをきうハそハよめうるとみみまて見えけれ
くさばむも 桐壺廿ハリ みそくさばむへきを[illegible]
日記十三ウ それハとろく草色なるハ 又人の心の[illegible]
いめらんこゝあのあをみをハえさのさましく 新撰十五ウ 例のおひら[illegible]
くさばめるもちふへそそあをくそひそうつろひあら
素材 羅ハ 赤黒 秋草中 [illegible]「[illegible]ときの山のときハ[illegible]
秋ハ下草やさくさばむらし

・けゝむ 暮帰 九葉 なけゝこゝろ

こゝむ 込 運歩 籠（コム） 込（コム）一入 日本紀 [illegible]
漫 [illegible]同 易 三ウ あしこのおと人こまありこゝそ [illegible]（コミクタ） 來由 京本來字脱 通諺 説文亦作遠 安閑紀
[illegible]ハうしろこゝるを

・こゝむ [illegible] 酒メグンシテ [illegible]ノ[illegible]
こちこむ 本注 さかゆんあまとちくもつも 下二段

こゞむ 永代 [illegible] 縮（コヾム） 窮（円）屈 古今ノ著聞 十猫 [illegible] 高きあしをそさうとかる子者を
[illegible]るのさし跪のさきをもぞとふま[illegible]へ、あしこゝとらねて こゞまりてやもしと
ともなりそうり 西[illegible] くほとるあるるてのみつこゝろをそせのりて 殿下のれる
をうち入させ跪うかれハらいらつむ あそて [illegible]数[illegible]あるみて[illegible]うそ

ガラス使用

ことなし ガ 中 段

ハ行四段ニ活ス 可考

ことなしぶ 無事 言成ゆゑ 古 ことなしぶとなそそ しうなさしろちなる 一本ぶトアリ 余ハ非 ひトアリ みトハアラズ

ことなしぶ 出ニハ行 中二段とあり

---

このむ 好 雅言 好（コノム） 字 係無ハ好也 喜也 已九ム年

---

こだむ 拒 応神紀 天文本 由新羅人拒（コバミ）

かこみのまゝ 紀ニ神代紀 いりえに

こりつむ 陰積 こりつもるものゝ さや〳〵 ほとぬるゝ 大原山の このむら

こりつむ 下二段

さいなむ 長明無明抄 群上 卅五丁 登蓮法師か云く おほあらしくとのまあいぬやうなる一の することあり それをあまり さいなみて とらくまれはそこいまれ もののしりつる ふせてありても なきものゝみなるぞ

細ユノ活カシ乳れ

さいなむヲ正トス さいなむハ音便ニ

さいなむ さいなき 罪 字 讁 譴ハ 徒木反 謫也 痛也 謂怨痛也 謫也 伊左不又 佐支太太牟

雷国 二十五丁 さいなまれて 累名 晴サイナム 隠サトメ 九十五丁 いへのとをさらなるをつかきるかれ 若菜 九オ 恩いのたるしのるゑさして さらなまる ここそいと 宮国 下廿六 宮 まりえ うつのとまいろきをそんて みなうまくそ いとねうきうるまうて あとさいなむをうつしうりきこいのそ 初一 さてるのまぬもさいなきて めのと又て 今 十ハオ まのやうなさいなむ きいとうふし

・さくさし　祈年祭祝詞　磐根木根（履佐久弥氐）　万二ノ廿九　岩根さくみて　万六ノ廿五　五百へ山いさくみ

俗ニ坼ヤクムト云　中ノヒスミテヒクヽナルヲ云　又サクミトモ云ル説ハタガヘリ

祝詞考云　踏裂の約ゞ近サクミ上云　手踏割し　待兼閉郭云　岩根木根ニ凹凸アル道ヲ踏行ニ

イフリ　裂ト云説ハヨシナシ　宣長云　凹凸アル事ヲ云テハ　自ラニ高ナリ低クナルヲ云　浪上ヲ

ウネ／＼アレハ舟ノ高クナリ低クナルヲサクミニト云ル也　首や此ヲサクミし佐久ミニハ

アラズ

・さくさし　（俗語）雑人ガコエタ処ヲコシラヘルヲサクムト云ハ柵ムナリヤ　サクムト同言なるへし　踏分ナト云ニ同し

・さぐくさ　[illegible]上手　五十行伽藍久矣

・さげすむ　一物ヲ押量ルヲ云　差匠ノ糸墨ヲ高キ処ヨリサゲテ物ノユガミスグナルヲ量ル事ヨリ出云詞ナリ

（年山紀聞）おちほをたくるもいさやさげすみしさげすむも月のくさ[illegible]

（書言字考）秤准（サゲスミ）工人用以揆量放物　俗語　文撮ニ其義　下墨（サゲスミ）俗　字月見

・さしくむ　（後拾遺一）（の明中の清め[illegible]）さしくむ事ハ[illegible]　（明月記）人の[illegible]まへ[illegible]

つくる[illegible]月十日[illegible]の[illegible]女と[illegible]　[illegible]て白く人[illegible]

きあようこちくの岸をさくき[illegible]月[illegible]

・ずれなむ　（源氏）玉十六オ　そハつきなれとも　手尺十九ウオ

帚木十四オ　あくまできれそうこるハ

若紫十六ウ　さしくる神めぐしる山の[illegible]
あやめ[illegible]
さかきやハ
あるトアルハ
体言ニテイサヽカ意ニ
雅望ノ考ニ　おつけ[illegible]　夜来ノ巻ニ[illegible]も[illegible]
といふ[illegible]　[illegible]すく[illegible]ハ[illegible]と
かつ[illegible]ハ[illegible]ねとすしくミハ[illegible]と
ふしきをそ[illegible]とりトイヘリ

・さむ　塗　古[illegible]の[illegible]　何[illegible]

（万代）帳保　田まハ[illegible]のまのむしさもあらハあれ[illegible]むしむハ眼の気

長[illegible]　[illegible]くの月[illegible]　あの[illegible]

（男之）（明一）まこそるの[illegible]あかれとす卯て[illegible]しもハ[illegible]の[illegible]

~~[illegible]~~

・さむ　深くた　ナ云　掛[illegible]の[illegible]もあはれとさ[illegible]の風[illegible]

・さぞらむ　柵　（男[illegible]）（後）秋中

[illegible]けぬへし　さをしかのつまどふ[illegible]そらむ秋[illegible]

うちちる[illegible]　（玉葉）秋上　（男之）山と[illegible]秋[illegible]の

そらむ廉の[illegible]　（古秋）秋[illegible]そらむ[illegible]せてなく廉の[illegible]ハ見

[illegible]さやけさ　[illegible]

（[illegible]）[illegible]あはれて[illegible]廉の[illegible]

忠度[illegible]　そらむ[illegible]の[illegible]

[illegible]集[illegible]めハ[illegible]ぬ[illegible]

・さくら　万[illegible]　宮[illegible]此[illegible]　さくら[illegible]て合つ[illegible]

○しゞかむ 縮 〔行幸〕廿三ウ 花ていもうしゞみあつしといとわりなうしゞかみ（〔細〕ちゞかへる こしゞかみて）
つぶつぶとうちしゞかみ 〔椎本〕三ノ十三ウ（似気なき物の条） しゞかみたる額つきにあかみ附ける（葵 附）

・しつくむ 醨 瀝。 古今集 見るまゝにきえはうつろふなかゝるものゝ [illegible] てもありけるかな

しづむ 沈

・しとむ 〔色葉〕 縮（ニ此訓アリ） 蔀 シトム 〔式部式〕（六ウ 古本） 蔀（ツキシトメ） 立蔀 大嘗式ノ 立及廻立殿ヲ

しとむ 平家物語四 橋合戦ノ条ニ 鞍つぼよく乗定つて 鐙をつようふめ 水しとまはさんつの上に のりかかれ

○しほむ 萎 〔図〕十八 之倸美かれゆく ・〔図〕 敧 婍 㱦 㥘ハ 四形奇音 志保牟（[illegible]）
○曝ハ 去及反入 欲干也 志保牟

○しほじむ 塩陰 〔[illegible]〕 はるかにうちしほしみたるはしむしきさまのしはしほしもうるかへるかし 〔明石〕（四ウ よそ [illegible]）
ほしむめとりて 〔[illegible]〕 をえて [illegible] しむるなる [illegible] 〔[illegible]〕 このうるさきしほしも
うる人なる ○年ハテ馴ル心之 ○塩ノモノニしミテ三至ル如キ事ニセシ [illegible]
和訓栞 心敬僧都さゝめごとに心すゞしくきこゆるは志保しみて 入江の浪まて
かゝる世中

・しらむい白

かけろ百首　かゝ崖（きし）の草のあろみ　しよくもて　ころものあや
しきなきろをこハあうそとよむれハ　しろのはこことゝいふ事なり
例のなりにハあらぬきこえんと見て置べし
空穂　俊の上ナハら　このことぶもハいろでつらしぞてふれぞ久しくちりあるところそ
もそぶまゞて七ちぞりあゆし参るかいろてとくのひゞつるを　とそ語
行平　廿三才　河引平　余のうハちてゝ　末摘む　廿五ウ　あるし　いろのあうあらうハ
しらえつるひとつきね

・しれだむ　園　月　手三丁　おすあきき龍ハうつくしき花んそきてくうえてひかりしく
しれそうを見すきるらやのちんきゝおおるを　しまんみちるしそ
おりしうり

○しろむい白

狭　三下　九八才をとめの袖もしろふころもりつゝ　末摘む　廿二才さりつのこそれ
しろきの　枕　いろしうしろそうれて　朗詠百首　僕夫待巷鷄
籠山欲明　見れとや　家まつ人を思ふらんとこゑぞする山もしらめハ
雨ツ俊蔭　五ゝのうゟ　声もしらまぞ
花宴　初　其の人こハ此ら臆しげるよ臭しろめるおゆうり　花　人の臆しろ时たよもろく
目のうふられもしてありのうへしろくと見ゆることゝ　新　臆ろしハ鼻白ミ悲しけ山面赤ムこ
稲邑　鼻白ムルべし　作ノシウルト云モ語意同シキカ　下リ衣代ノ軍物語ニ名ニ恥ルト
云ルハ書ヲウツムケテ敵ニ向フ勝軍ノ勢ヒシイヒ。シナリルハあふむきて負軍ノ体ヲトヱリ

・しろむ　揃押　和名抄　内典云胡麻熟已收子數之揃押（俗語云之路無）

しゞむ 皺 因九 つゝまりしちゞむ 皺（シウ反） 図 酢ハ 測板反上 酢醯 酉皺 皺（詩本）
旡毛氏志和牟 ・ 皺ハ 徂驟反去
縮也 麻同字 比太又志和牟 ・ 太和名抄ニ 云 ちゞめ トアル ひゝむニ通フツネ也例

さゝむ 佳

すゝむ 澄
拗ち書り かてきこゆるよしき（筆ノカスレタルニ） 十二月冬のおきてすゝまぬ心ちして
くわりくにへつるよしきこ

・すむ 濟

ガラス使用

・ふゞせむ　幽　山里にて冬は世をそむくとてすめる山ぐちのいたくみゆき（かき）はなきよのなかは

そのかりきりゝくみ　秦丸ちびくまる　後ある言有ニ引ゑをさそりゝまと夏日

盛衰記一ノ七丁　伊勢平氏ハ酔ヒケリトハヤシタリケリ目ノスカミタリケレハ取成ハヤサレケル

---

ふくせむ　情修の絶上　さらみきんくこゝろくるしきことの世のつねの人にもまさりくさり

あまつゝあるやるこれハねくれど[illegible]とまどりそくとそこく　いろちるまあん

見るよろび　[illegible]すくゝに立そこていれ入やうなまし

[illegible]　[illegible]咕瘂啁（口）嘐（騒）　諫縮（スクミ）

原英九　口うちまけみて　孟　口をならる老人の歯のぬけくる様也

・あげむ　原氏三　幸いろちずけゝまるるそつき　そやぐそこそつくむのさきつくそく

宮本人相孟細よろし　つきまてうちけれんとかれ[illegible]　[illegible]　[illegible]ちけそけゝ[illegible]くやうちれと[illegible]

[illegible]大[illegible]大[illegible]　[illegible]ニあげゝいうろくそうちあく[illegible]　よくくうさけゝうちくれ

らあちそる[illegible]　歯のぬけて今ニ[illegible]の口[illegible]けゝてろくるむ

あそろ[illegible]にそうくると[illegible]　[illegible]老者の歯[illegible]て　[illegible]

といつるいよくし[illegible]

---

さすぶ　［寄］修ア[illegible]

さすらふ[illegible]中[illegible]

五　おくさむ　進文[illegible]　［寒[illegible]］かくしきの[illegible]もあめ[illegible]のよのみ[illegible]さむ時の[illegible]　[illegible]

［[illegible]］[illegible]そかをもとくうて世[illegible]をもそちて宿[illegible]をもちきれて　［[illegible]］

さすさむ[illegible]や[illegible]の秋のこのかひやきうつるもさむ月[illegible]　[illegible]

［[illegible]］[illegible]そ[illegible]けゝそくら[illegible]て[illegible]　[illegible]ハ[illegible]

ものとこ[illegible]　［風[illegible]］くさそれの秋よりみるまかゝるゝのてさくれ

さすめるたとひのね

---

さくむる　全[illegible]ノ[illegible]ハ下二[illegible]

五　さくむ　進　［国[illegible]］[illegible]ハおつことのんをさくむをうの日ハうれしそそれや

あそり久しき　［字］昇ハ升字同矢承反出也登也　復々年　○還　[illegible]子矢反平進也　須々年

○従耳　佐志須々年（ひづ）[illegible]

[illegible]ナス[illegible]年已止ト[illegible]（便乳）[illegible]動[illegible]ニナス、ルコトトアル（[illegible]）[illegible]

せぐむ 淳

・せくゝむ 国 赴 ス、ホム

・せがむ 嘖

（十訓抄ノ九）郡司つかへ人のあやしうてしあり今せがみさいなむるにいとえぐう
うるさうてありけり（続拾遺記）藤原為定 かどもがさえをきらさえでしあ④
せがみせられしも又らい屈らえぞなきぞ（十訓抄 巻下下三九）そのあかを都へせがあれ
だよ不便なることせのつのい三月さのあまりにいふ

・せゝらむ 国 嗡せゝカム

・せらむ 字鏡集 滕 ニライ 𪘲 セラム カナシミ セラム アハレム セラム

---

そむ 染

忕 紅子 能そむ秋の色すしも 春さへ何のをまずるらん

・そばむ

（かげろふの日記 下之上）ふるらハそそそめぬると 物のいよあまでそえきこえけむと
そばむるかれ　ら露毎 かゝりをそれあまくもの山のもうろ ち物されハそいめる
いうハそきいゝし 又附録〔〕りそばゑ見ていとかくまろぎそぼけまろハ
人そばげなーと いふ（住）もうつちそれそでおはせるを（字鏡）側 ソハム

蕃籬四ウ 此木丁のうしろとちなるそそまあり
蔵四 そばそてあれハ扱いええそ うつ花宵上二に おはこうちそばそて
源 剣めた なそらひてもしそいつ の花へるとあり 但しここ一本にそばめるるとあり
さるつすみもいやはフノ内新見ニやけしやりまつなし

ガラス使用

そねむ 妬

運歩 猜ソネム 桐壺 おとしめそねミ給 同 上十三丁 嫉ソネミ 類聚 忿ソネム 狭衣

猜ノ 住吉物語 哄 まゝこ あはこの可をそねみて

[illegible] コギタミハ コギタワミ ミニノ コギメガルヽ

○たむ 同、轉、たミ こぎくと

五ノ五 ゞくるかるハてもろん あれのさき 擲 多味つきし さちし かゝみ

十 かきろーも 擔 回 舟 之 又 もこの前を 擔 轆 小舟 又云 やらのさき 多美臣

たムベし モトたびトアビナルヲ びミ頓ヒニー九ミト ナレルニ物たび皆 出ス

・だむ

・たむ 運歩 濃 薄 濃昼 ダミエ

有名 あさゝ錦のをなし度は たえつゝしるの [illegible]

是ヲ以 金青緑青 図 鶴 松 亀 以 紺 濃 緑 之 垂 結 松 枝 舟 之 鹿 自 蝶 小鳥 以 銀 造之 雅集 七ノ九十三ウ 古今 深秘抄 下ノ七十九ウ 東宮扇地ハ檜也 以 白泥

擲 ［名ミタズミ読人不知］ たむけちらりてうらのしきしうけし かくていれしめて おゝしくうきくうくて

ちゝるゝ云 そもぞいと こうちうゝてる 擲 明 十二オ ことば [illegible] てこそ ちゝずみ ものあはれる

雅集 七ノ九十三ウ 東宮 三ウ 序 ちどるかうち せが みゐ くもの うちゐ をそて

ことろゝやゝろて

雅集 言ノナミルヲ云○本語 だむ たへルトたむトイヒシ例未見及バズ 白氏文古 金氏帝リ

一病夫 痩 落 性 臭 遂 拾遺 正家 下 ハ田舎の谷の菓 あれども たまくら

寄 [illegible] ちゝめにろり 宋文 廿 羽 [illegible] 序 たミゝる云の [illegible]

えゝるゝ [illegible] 同 [illegible] 序 [illegible]

宮 [illegible] 後拾遺 序 言の葉 ぶしく もてごく がきびいくるのあり 見 [illegible] 沒 行ニ 類 モ云 [illegible] 言 [illegible]

古今 ハ田舎の 菓 かてそぐみてる ハゝらゝ あるを ハ ちゝめゝ [illegible]

谷の菓 あれと 山家集 下 [illegible]

村 あれ [illegible]

ハ差云 以 羽中 版 ニモ 活 かて [illegible] 回 轉 トミ [illegible]

顕昭 後拾遺 序 注 よ云

の 括 ヲ ヨヲ 清ミ ひヲ 濁 りり

たくむ 巧

たくむ 又 嗜 窘

運歩 嗜 ネトム 不一 殺人 窘 宕

後鳥羽院御口傳 大和 哥 を詠ちなるむ 昔より 今 に至まて 人のこゝあ まて 従かぎ 自らたしちむつもなそ 天性のえろるをまて おのつ 風情のめぐりをめくらし

雅集 七ノ九十四オ

神代紀上ノ廿三 辛苦 降 日本 廿一 嬰 卌 綱 困 厄

竟宴 こゝとのりをうけて めぐよろしちむる 子をとめくりて 駆の かさをつうしめんとろり

今昔 七 かゝめのかをとりきて かゝ名ちなる人こ 蒙求 五 源 信 遠 歌 を好む人まて 其席中の 名々 ちたちて けれい

たゝむ 疊

[illegible] [illegible] 源俊頼朝臣 おいのなみ身のうへにかさなりてかはをたゝむ（散 夕十隠 ちるもみぢ）
おもてみ[illegible]てむしそり 雅集七ノ五十九ウ

〔古今〕 [illegible]川や[illegible]の[illegible]もの[illegible]
散木 河 大井川[illegible]なハさゝまくいそぎみたゝむ[illegible]

・たゝずむ 〔字類抄〕 逡巡（タヽスムナリ シユンジユン） 〔運歩〕 彳亍（タヽスム タヽスム） 彷徨（タヽスム） 〔易林〕 躊躇（トモ） 〔雅集〕七ノ六十二ウ
〔源〕 [illegible]一所を[illegible]ふ[illegible] 〔徒〕十三ウ [illegible]
ありきて 〔書言〕 佇倚（タヽスム） 佇（タヽスム） イタヽスム

・たてふむ 竪文ヲ令 活ルヽ
〔河海若紫〕廿オ [illegible]おしつむといへるふみ（古説）
[illegible]をこそふみ（の古）こそ[illegible] [illegible]也[illegible]あり おもひたち[illegible]
[illegible]のうちやうにこゝろ（古）へ[illegible]わといひてくまある埋[illegible]字
[illegible] 湖月ニ引ク六月抄ナラス引キ十七ウ
東野州[illegible]一首[illegible]ふみておとすまりたてふむといふ[illegible]
[illegible]一様之

たのむ 憑 〔運歩〕 憑（タノム） 頼（タノム） 特（タノム） 恃（タノム） 〔雅集〕七ノ七十二ウ

たのしむ 樂 〔運歩〕 樂（タノシム）
[illegible]山[illegible]おもいわきおもひくさの[illegible] あさきまちめもとにやさきのかもしかかへん

・たばさむ

・たふとむ

・たもつ 〔字〕 保（ハ七何反平又上）与留又太毛牟

夕顔十七オ [illegible] あはれなりけれ

たるむ 弛

囲 揚衣天晴 [illegible]

陸佐 [illegible]

[illegible] たるむ [illegible] ちかき

[illegible] 掛衣 [illegible]

[illegible] 枝ハ土につくまで [illegible] 枝の梢ハ [illegible]

囲 八田早苗 形式によ [illegible] あまそとものをさのさへ [illegible]

たるむ 初春山 [illegible]

万葉集 [illegible]

菜日家居大 [illegible]

たるさい 懐

[illegible] 鼻 同

囲 [illegible] 映水 [illegible]

囲 剖ハ 居位友上屋曲也 西加西 又太和年

[illegible] 枝のたるむ [illegible]

[illegible] 昔ら [illegible]

---

ちぢむ 縮

瘴添墟書杯ノ字ナレハ上云字何ソ縮ク用ユ 文縮ヲ用フ 文選云 諸木無枝

縮 愁多トヨメリ 齷齪ヲモ用ユベシ

ちぢむ 字名 瘂 肺チヂム 痞 同

ちぢむ 同

ちりばむ 塵公

万葉集 [illegible] むしのその [illegible] ちりばめて [illegible]

[illegible]

[illegible] 疑 [illegible] ちりばめ [illegible] あそぶ [illegible]

囲 曇頭類族下（[illegible]）へ[illegible]は
うつのを日ノ行の[illegible]
[illegible]
国 三月三日人のうりふつ[illegible]
[illegible]
[illegible]
うまちこつむち（[illegible]）
囲 抓 側交反 掐也 瓜剋也 剖也
掐也 亘牟 ○ 搯 搯ニ作 上古狭へ
桔合二反 下吐刀反 搯 搯也 叩也 茂
取也 亘牟

於[illegible]二[illegible]の[illegible]
[illegible]つてそうよ
人の[illegible]ぬ止 [illegible]とつてそい
[illegible]我身をつめりて人の痛さを
[illegible]
[illegible]
と[illegible]
[illegible]二 [illegible]をつめハ[illegible]
[illegible]

つむ 摘
ハとつミ。ドをつむハツヾル也 菜ヲつむハツミ也 くひつむハ斎歯ニテカム也
囲 六帖 [illegible]の[illegible]師まて[illegible]る[illegible]のめ房手を
つ[illegible] 良[illegible]人のあ[illegible]をつむ[illegible]
おこせよと[illegible] 順 手をとつめハ[illegible]ふらし[illegible]
運歩 撮（ツム） 擷 摘 茶 囲 多[illegible] [illegible]
いくらのまをとつまんと[illegible] 散 人の[illegible]
[illegible]
囲 王朝 花宴上三 手十二ら[illegible]の[illegible]
しても[illegible] 国 [illegible] 宰[illegible]の[illegible]も人の[illegible]
[illegible]
[illegible]をつ[illegible]してさ[illegible]つむハ撕の[illegible]

つむ 攅
運歩 蘊 積（[illegible]）
後撰集 秋上 [illegible]
人し[illegible]
万廿 [illegible]つてあけ[illegible]
万十七 [illegible]
人麿集 [illegible]
後拾遺集 女の[illegible]
三日の[illegible]
拾遺集 [illegible]
[illegible]めハ[illegible]人やまつらん

つむ 積
運歩 廿 縕（ツム）

つかむ 攫
運歩 掴（ツカム） 捉（同） 攫（同） 拈（同） 撮（ツカム） 国 抄 楚文反 手初按反 去来何反 上 切攫也 撮也 [illegible]
掠 強取物也 舊也 鈔同 不弥太 又亘加牟 ○ 摑 攫ハ 同九縛反 持也 搏也 絶也 到也
折也 言 歎 瞋 則 攫 亘加弥 波死

うきかむ
運歩 啄（ツイ公）
[illegible]上十三 不啄 啄（ツイバム）

うぐむ ツクビテ[illegible]
荘子 外篇 口鉗（ツグミテ）而不欲言 天武紀 上二十六ウ 口閉（ツグミテ）而不欲言
前漢書 鼂錯伝 天下之士拑口不敢復言矣 [illegible]
[illegible]父君不聞不之諫[illegible]而従父君吾不用臣之諫則拑口而従君 [illegible]
応仁記 上ウ

うつむ
字鏡 齲 齞 上千定反 下亡定反 去 阿牟弥 豆志牟
治療述語ノ条ニ 頭ありと見ていたまうるのいそと問ハ女房の股立をひきあげ
てみれハ 股の[illegible] 腫あり [illegible]て 疵のこ[illegible]
[illegible] 萬葉集類 [illegible]
[illegible]

字鏡集 腨 痲 日倭 アシクロ ツルム ヤム チツモル

ガラス使用

・つゝむ 運歩 包（ツヽム）裹（同）浥（同）惻（同） 千載 春下 寛平に「あかなくにちるを花を惜しと思ふに

放五つきど 堅坂阪ハ同作 普何反 平坂也 以土壅水也 佐加 又牟久又豆々牟

字鏡集 縢（トツ）縢（同）縢（同）縢（同）（カラクリ ツヽム）

倭名抄 云ハツヽミ又草ツヽミ 病（同ツヽミハ）二十五 四 大刀をあずまかし 美毛己都々牟

こそよくたちやかくりませとよめこれ也」

萬葉やもとなき人の思ひ給ふ 現ませも 社あらぬなるこゝろ「人めつゝむとかくるらしき

・つゝしむ 慎 運歩 慎（ツヽシム）謹（同）龔（同）虔（同）欽（同） 縮（ツヽシム）懸（ツヽシム）斎（同） 字鏡 悸 亘之之年 言之慎く

・つゝしむ ツヾシムに

・つゝしむ

・つはるむ 将門記 雖未知勝負之由 兼テ恐尓懸胎ム 字書ニ曰 恐尓ハ者懐言 都波恵牟也 上音官（反下音ハ志反）

---

えんおちて梅をつくるあられ つゐめるとのちるかはちしき

家 芳へしと云いてム ト云 猶二ハたる 何ハトもなり

山家集 かくありつゝかをそのそよそよ 風のめぐるらん

夫つゐあゐまちてまかめをもそれは 梅なるねてのさつきまへ

ぐつむ 茶 運歩 茶（ツヽム）曲（同） 団 いろちりかつちる梅をもしあまし立枝よつゐむを

[illegible] ちりりをへ 古今和歌集 あ真入る 新拾遺 梅をちの内まつゐきよろう

蔵玉 をいまくつゐむ梅うとのちらん 梅なる月のかいろめく 新唱 梅をそめそゝろ 文やなゐ 伊勢物語 引ゐぬゐ

・つまむ 抓 神代紀の抓津姫 常にをは抓ぎ ・つまむ 運歩 六丈 撮（ツルム） 摯（ツルム） 持綵紙 ミナ 蛇犬掴 一文（ツルイリ） 兼記秘訓同し

かすむをとり梅をとり 早苗 つまみの花

ゆみまてとをり

おりつむ

・手つくむ 運歩 捧 渠見反 提也 手頭也 牟 又巳不之

とむる 梅も散る 世中よことかすることに わかたなにとさそひして 〈へいのちまかちづくは〉 （つ続用言）

（後れ六十六歳大成七ノ十三 紫の枝 つむみたるを ちりつるとまつ）

・とぐむ 止 聖 倉名 聖九 よみのせうりを常に美うね トアル 美 此 紛 後ノ物ニハ タヽコノ語ノ下ニ流ニノミアレド 十七ノ八 此ノ一段ニ活クトキコエタリ 但コノ語ノ活ニハアラデ中ニ流ノニモヤ 此 オモハルルハ 此 ナホ 其 下一段ニフアルヘキ

ガラス使用

もすそハ　ぱりとしさい〻　万七　むさちハちを等も之美し

此行中二段

万七　大海の礒もとゆすり立つ波の　又十　万多ふとよみしゆくらの

万十九十七　川をさへすゝとよまハ[illegible]をひもとき[illegible]り

続拾　雑上　一両後山水と[illegible]芳地川　元や村両ありぬらし

[illegible]しくて　小塩の山の[illegible]をやま　後拾　雑五　[illegible]とよをきとくの[illegible]とよみて

[illegible]　伊勢大輔　葉月[illegible]

トヨムハトドロキヒビクコト

トヨミハ下二段ニ出

とよさ、　船君

古　山下とよみ[illegible]

枕で　ふとよむを[illegible]たつめれハ　こし自然

・とよむ　万十九　[illegible]等乎[illegible]　大船[illegible]　使我何ハコノ下二段ニ　使我何ニ

とよむハ[illegible]て月の形[illegible]

---

みちぐさ　慰

運家　慰

李花　ちくさにのかるれちや　さらしなの月ふるさともちそを

[illegible]

[illegible]　十六ウ　おもしろ[illegible]ハ

[illegible]ありぬつくとそん

続千載　[illegible]

[illegible]

新拾　[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

宝永　雑　[illegible]

[illegible]

[illegible]ごさ、　和

[illegible]　雑　[illegible]　山[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]　ちこよんつこの

[illegible]　あく人[illegible]もちこせあて[illegible]

新拾　[illegible]の川の[illegible]

[illegible]

[illegible]

同　[illegible]

[illegible]

・なさけても　夕霧　[illegible]　ちさけ[illegible]

[illegible]

なづむ 泥 又 滞

[運歩] 泥 ナヅム

[かげろふ日記] 中 なつみてける草のなかにて こゆるを見れは（カレテミテルハ人ノ物思ヒアルサマニ草ノ葉モ見ユルトゾ） [拾遺] 春

いとくるしくて

この君なつみて あさきせつくりあつしぬて

[古今] 乃のあとをなつみてゐまるきて 土三 ろるそをとこしなつみて まれ なるそをとこしよ

なつみて あのりこ やりともみろ きのちしめよ たまへのこを なつみてそゐる こハ[illegible]

[illegible] 神をみなつみて[illegible]さへの[illegible]もくちき[illegible]（文部[illegible]） [illegible]なつみて

けけのやりねてまこしも[illegible]ぬま[illegible]いかを[illegible]なつみむ

[中務内侍日記] なみのもとそをいさう[illegible]れいか[illegible]

カニ卅九 石根さくみて

なつみこし

ナヅムハトドコホルコト

カハ[illegible]ぬる

[illegible]なつむ[illegible]

ナツミシテル 難 泥

ルガニ意アリ

・なつみさ

物ニ煩ヒ 滞ルシテ

記ナルノサミ

こしなづむハ 腰ニ泥テヲ 水ニ入リ又ハ草ニ入リテ滞リ煩ふ也

ゆるもやまずせおいしますみんつくしの一本もあるそうにめし

又亭子院うた なつみさんそしらいゆあさそと むらいの神のいつくにあるらん

春の野に菫つみにと こし我そ 野をなつかしみ一夜ねにける 赤人（武山城国乙訓郡向神社）

なへなむ サキ ナヽう ちとすなへあるすぐる

なやむ 艱 [運歩] 悩 ナヤム 痾 同 [字鏡] 奈也牟 悩 やまふ

なれなむ 馴 狎 ナレ 物云ハ何もなれいとつる

○にがむ　苦　源　三上四ウ　ひゝしらひなきをひきあけてそでにしくりつゝかくるるみやまき
やくもきはくふうきめへし　字　唶ハ且䶪反（鮿イ）小也不正也尓加牟（コレハキノニカムニミカム也云）
日本紀廿三ウ　あつきうとうきのとハ　住吉物語廿三オ　ゐくよしのそのうろみゐうハ廿六
ウツホ梅上二十六ウ　今本下　つるうてとうるるもとはれて
十五番読ミ　湿時酢醤ツレハ酢ムツリトテニカミテヨリハ廿こし候こ

○ゑらむ　唶　色葉　齚（キハ）ニカム　齸　同

にくむ　憎　易　上五五　天且嫌之地復憎之　段註　憎ハ諸字書無見　惣暇名義抄載為悪俗字
故好悪字從忄以別善悪字也

○にれかむ　字　齝ハ丑之反　食已出入嚼　牛乃尓介加三　○群本　唶ハ且䶪反　小也不正也
尓介加无○　哃ハ泰之反　牛細食　牛哃也　牛乃尓介加牟

○にごむ　柔　崇神紀　和享（ニコミテ）　続紀詔詞　其人等乃和美（ニコミ）（ナゴ）安美応為久

○にごむ　寝覚　あられてきこゆ流波れをとれしの名のといとれくつるの
流のきくかをとをつかる雲ハ小らし空の大さまて西将の中に
ちりつゝちられ如そく泉川つりあもよろくうまて尼君とトよ
にしくられハこは見さましと　あつ君いわめか

○にばむ（ブ）　鈍　色葉　涅ニバム
源　葵　こにそめる色をまれてる　葉色細波　ころもかへてつく

ガラス使用

上 にらむ 睨 〔類〕上 六丁 睚（ニラム） 中七丁 眦（ニラム） 中十丁 睚眥（ニラミ ニ合ニ）

〔図〕睚 覗ハ 同 式内反 上 暫視也 太加比目 又 尓良牟ロ 睨ハ 妄先反 邪見也 与己目尓 弥留 又 尓良牟ロ

〔色葉〕 瞋（ニラム） 睚 眦 眦 眥 睥 兄 睨 睨 巨自 〔又〕 睚 眦（ニラム）

白眼 同

めざむ 寤

古き あひミしハあるこしみえてなきものを ねざめ さめたるかなしめきなりけり（よくはねのいめ）

上 ぬるむ 温

〔後〕〔順〕〔図〕 人にまつる湯ハ まづ ぬるさにかへすかのやまをも あらひて 伊勢 出人 なれはありのやまひあつかひよくきくぬるミて おはしめぐりに 若女 五十六ウ ゆるきもぬるくこそもいとあはれなと

めれそむ

〔宇治拾遺〕一ノ九 三ウ ちりてはちりてのちめきハあらはれて 穴のあきたり

めれそするハ ちりてちるをのこいぬのあり

ねたむ 嫉妬 〔類〕中 十丁 慷慨（ミテ） 子夕 〔運歩〕 嫉（子タム） 妬（同） 嫪（同）

〔伊勢物語〕 頭 卅段 ねたむ女をまもりつ

・ねりうむ 〔運歩〕 哃（子リカム） 牛

のむ 呑 運歩 呑ム 飲ム（酒）

のむ 祈 呉中主 祈美ノ

万 ぬさおきて それハこゝろのむ あさまつりを [illegible] あまくだりしめ

のぞむ 望 運歩 臨ム（垣） 望ム（上臨下） 莅（同） 図 覘ハ 勅弔反 見也 視也 乃曽牟

所権集 我のよをのぞむ

のむ 食 金花 たきのみるあすさむ川のあをよそながくやえる [illegible]

図 啖 食也 徒帝移二反 曼 飲意也 波牟 ○ 喙 波牟 [illegible] ○ 噬 [illegible] 噛 （四形同）

五結反 噬也 啖也 又良不又 波牟 ○ 嗑 吉盍反 入合也 又多不 化一 加布 三反 噬也

加美 [illegible] 嗚 負容反 啖也 乃三巨 又須不又 波元 ○ 齕 帝世反 去齧也 久比 波牟

係シトナセラうつき

のぞむ 何バむ也 ヨ守 世らよしふミ あさけ [illegible]

人をそうちあされちこいうるそや 新古今 あきかぜの [illegible] ある [illegible]

うきあひかろのかゞう八見ゆる 又たうちうきのあされもとうつかこゝろしさい

何ぞむ下云ふを庚色 こゝろこゝの何し

・ちぐさむ 羽栗紀

宇津保 宰ねすこそけの兄弟のむすめ子ゟ徳きせけりしに

ちくさて君ちくそちい此の子のちゝるあらじや与代を教し

三宝絵 この君のうきさねちう（あきうけ）ある人のおやゝはれゝるをとらつおとせて

きぬきらちをこゝをつくりていれておこせくうそこくましえをこちるや

ありてより大気をみさうのむへにちれ 栩葉十三 まろしもてちくまぬ孝

つゝるるを 妻鏡 背ぶゝ云 大鏡 一（後一条院竟宴条） 一御宿色一子のことくちくく

おゝりあさて

一万五十口 ちくさもちて 又有くちる

ちゝん 我子ちくめ天の徳む

・ちぐらさむ 厚 宣命 愢美

ちげさむ 勵 欽明紀 慷慨

ちげさい 挟

・ちつむ 餘（運歩）馬 日本 過

明応記 上ノ五十丁 栗毛ナル馬ノ八寸ニハツミタルニ白覆輪ノ

鞍置テ金ノカリノ馬鎧カケテソ乗タリケル

馬のちつのおちづりはどいふ絆をくれてあまゆよ 平家物語 四 橋合戦ノ条ニ

ゆぎのハかいぐりておとぞまよ

太平記 ソウニハヅミカル

・ちぢらしむ 縮

続紀 ヂカレミイ

シミナモオモホヌ

・ちぢらむ 縮 糸ニ出

ちゞしらむ 臆 鼻白む 臆スル

（新）臆スルハ気白む 鼻白みミオさての人ていはあらくうるすれをさめる

ゆるぎけいあつまむ

●はにかむ 圏上平 皆ハ波尓加美又云伊岐ハ美 圏齵ハ玉篇反歯重生也 波尓加元
又久不又加牟。齪ハ側鳩反 齵也 齒偏 波尓加牟 又久不。齷齪（玉住反）
又齒不齊貝 波尓加牟 又久不。齹ハ士佳反 平 也 齒不正也 波尓加牟
又伊女久。齼擂担ハ同作則加反捉也 波尓加牟又伊女久

●めぐむ 【字鏡集】 嬴 萌ハ出 娃（同）

はらむ 孕

●ひいらむ 瘦 音蒙誦句 癈（ヒイラム）

ひがむ 夜、 繙 僻（ヒカム 芳辟反） 駢 謗 逗（已上同）
（紫田下廿七）

●ひずむ 俗語 宝永撰 姦偪（ヒスカシ ヒスカシ） さかしのひがことわざとしるし
永代節用 歪（ひずむ） 斜（ひずむ） 歪（ひずみ） 斜（ひずみ） ひずむし ちまぐ 奸非（ひずみそこなひ）

ひそむ 潜 〔玉篇〕 嚬（ヒソム） 顰（ヒソム）也 顰 同 嚬呷盗偸 嚬 已上同 〔字〕 呲 徒阿徒陀二反

口参差貌 口留加年 又口比曽年 栄花あ りとあれハうちひそミめるを
いとおしうのみきこえさせ るひそまりあへるを

ひゝむ

類名 倚（ヒヽム）

ひらむ 〔新九〕廿五 ひらめるあさけりける 〔字鏡集〕 膈（ヒラム イトカナリ） 膁（ヒラム） 鶣 同 匕号反（カナシミ アハレム ヒラム セムム）

平家物語五 朝敵揃ノ条ニ 鷺羽つくろひして立んとす 宣旨ぞと仰されハひらんで立さらん

ひらむ 〔類名〕 胗（ヒラム） 膈（ヒラム） 〔童蒙頌韻〕 疲 疵 肢 痿（ヒヒル）（ヤミテ キズツケ ヒイラム）

ひいらむ も

ひるむ 痿 〔字鏡〕 瘘（ヒ ヒルム） 痹（ヒルム ヤセヒ） 痃（ヒルム） 瘀 同 瘭（ヒョウ） 胈 同 芩 同 拌 同

〔和名〕 痿痹 俗云比留無夜末比

ふむ 踏

〔徒然〕 百年のあらしにくちおろさせたまひてのこるの作のめくりに
人ハさわりかせよのひて ちらされまうされハ かきて作
にもあひつけゝる 小海の身をて言ひるうけ給ひ手をふれを
ふるなところの界をそへまゐらん

〔字〕 踏 度 倶 及 度也 越也 踐也 踰也 布牟

ふくまし　含　神代二　ふくろをもとみもてそれハもとにふくめるおハあはれなり

運歩　含フクム　噛御フクム

・ふくむ　含フクム

若菜上　音うさしぬきのすそつくもまでし　ふくみて　なまめきたり　ひきあげたり

相さくをあつく　湖月抄注　ふくみてとみるたもしの義ふくみてかくある　合ふてとなハなからなかあるよ

叶ハを〇、口云ん相たもし義なるあるを　ふくむ即、やくふむ云と同し詞ヌてあるし

初音　十三オ　くやきさきのませんはいてふうちとけさるきまへいることもなけれ

此詞下展ニモ

枕九十五段ハおよみのままよりはされて

またうちふくふふふぶ

からきかりうるアカを初めてさし

・ふくふつむ　乱鳥

宇津保蔵開上　七オ　さもあへたけなく、うちふくみきて　ひんくさ　うるはしきうふもやうをそつのくろきを　ちそのふくろあるよ　くやしきかにかるまうるを宿の殿はうおはの御けしき

幻　十五ウ　中将の君ひとりおもてきふうかれしるをあるを語りしてこれハ

ふくまをこしふくろしるのくらちてゐとをもりしけし　源氏物語ハ　十六オ

そどけなくうちふくぶきそのみろびんぐきあきれたるうちきまろきまで

栄見ハテズ葉　一葉ゐの君まいそうしうおもわひぬるはもしいと

いろうけふくろきてそこ人おもひそめる　兼隆ト兼綱ニ

枕二十七　わんのもてしふくろきこれい思ひのおしいれられる

蒙求和歌抄　鶺ツクミ　鶬リウノ　ニキ　藻モウ　フクミ　瀧トウト　フクミ　フクメム

・ふくらむ　連阿名桁抄　十五ウ　前ノフクラミクチバ云云　萬葉集新抄　卅一オ　あまてをぬりて　あつくふくらむ

ましみつるとこのめへ　てそうりてい　るなよくしそうつけて

・ふくむ　圀　貝ハ丘書友入張目　万夫止山年

---

・ふふむ　含　サラリンヨム　ツボミトミニ　ゴル

万　山振て手づつの宮のいちつつしつつるるまでみ引之をおちまれ

萬　万　洲めうとりしおう我ふらしあをきうあつて咲めらんを

まうくあへぬと清らん云うと冬の月のもと見れハ宿るのもと咲

万　布敷壹流

玉名　哺フフム　含フム　もム　嘆フフム　噛フフム　咱フフム

・ふむ　踏　仁徳紀　古本　踏ホム　頓所

・ほつむ　神功紀　五十一ウ　大風順吹　帆舶ホツム　随波　不労櫓楫　便到新羅　通証　十ノオ

舶蓋積物之船也　和名抄　舶ハ中大船也　黄泥抄　都具能布袮　推古紀　廿六年

フハ艘　舶材ノ　万葉　九七ノ九十三ウ

蘭字義従ハ　ホツムハ　フワクムなと宿の如し帆に風をふくむよしといふ　されハ州ノ名

ニハアラシ　神功紀ナルハ　ホツミテト活用カレテヨムヘシ

ふところぞむ 切

東屋十ウ もりのさうのふところをさへてんふをかひきて守りて

あなたこなたのかたつ共才らちとふところつゝみをすませえて

あらうんもあらずいとをしく御座候て

・ほらむ 圖 葯 炎ハ同 通敵反上聲也 乾也 又 道蔵音 花初將開 保々牟 又 手ニ 阿佐美

ほゝゑむ 〔古拾遺〕 此ハをしきをて ほころびそれは そうちすてるゝ 〔河海〕 う房にをと

ほゝゑむ あのもをみられてそらしとおれてするなん

・まぎれあむ 〔源ヲトメ〕 廿ウ わらき人ともうちまぎれたまひ いとゞきやよづけたるんも

おはせてべらめるを あなたこなたのなみふれたるところおいしますでめれば

胡十六 まどろませのなす

かし いハ つるまとまれをも

秘鬼こ有り

廿ウ まどろむ 睡 〔新続古〕 秋の夜ハ弘安元年百首 まどろむ夜半の月を見て あろちくもなきを

うつゝと思ふこそまどろむ夜の心なれ 不忘 〔後〕 秋の下 よみ人しらず 〔是則〕

秋の夜をまどろまでのみ あかすには 落ちよのこともためかろう

〔運步〕 寝 （ニトヤ） 〔後拾〕 枕ぞ 猶の夜ハまどろまず 夜半 能 あけてきちなくと兼てしりせハ

・まふとむ 〔字〕 具ハ 丘呂反 入張目 万夫止牟

・まろむ 〔字〕 丸ヲ 牟 そでゞもハまろめいでたるなど 火かけのさうやうあらん

をとゑらんとなひけり

・みゝむ 〔字〕 嗜ハ 黍之反 牟 啗也 牟乃美加牟 ○ 唶ハ 且 覿 （醮イ） 反 小也 不正也 示加牟

将垣集 神岳、九九五

・みつらくむハ 老屈

源夕顔 みつらくえて 姥だち 侍るなり

後撰 たゝ川のみつらくむまえ 知らるる

むしだむ 虫

・むつむ 圖 睦ハ 女要 丁私二反 平 峯字 皮厚也 睦 親近也 眠 遂也 皮堅也 親睦 亦 數也

牟豆牟 ○ 下ゟ 睦 眠ハ 同丁 私反 平 峯字 皮厚 和豆牟ト見エタル字ハ牟ノアヤマリ

ナルベシ

めぐむ 堤中 蔵 まださうなるをとらへてもあるにめぐむよりけしきことするをそれは何ぞと枝の（あやしきことを）彩物 刻みてまのくはへもえんなりけるめくむものゝあやうき草 四

めぐむ 恵 玉葉 冬 冬木には木のまさきもまだしき枝な色くれて又めぐみつきまそをつく

仁徳紀 仁寛（メグミ） 同 古事記 仁（ヒトヲメグミ） 字 恤 女久牟 （全文出 うけする）

---

めづらしむ 堀 かくれなき山の萩よりも咲きぞ初むるはめづらしきさへ（けしき 花）ちるやこの人の 同 春上 月詣 まださいはさくらとみし梅もひめづらしき わすれぬ 匡 辛此人とめづらしもあるそさら

---

モ之 良行下二言出

もむ 揉 和名抄 四十八 意銭（セニウチ） 後漢書注云意銭 世間云世述宇知 今之攤銭也 楊氏漢語抄云以手有所揉（モム） 謂之攤 唐韻曰挪音諾何反 搓挪也 字亦作攤 世間云駄搓（ダト） 音七何反 手攤（モム）銭也 剃 無（モム） 色葉 摩（モム） 捫 捌 已上同 捋（モム） 洗也 捿 儒住反 又奴禾反 又乃回反 欅 澤也 手 轢 落歴言 淺也 搓 七何反 式云 乾 攤 奴但反 又他丹反 米也 已上同

為忠集 百首一 四ケ （惟高親王惟仁親王位あらそひの時 云々 記せし所に）かんこうをくぐきてもまれしが程みかねてとることを以てもむかしあづきをつきくぎきてちからをとりかくさせ ひぎんようちくくらうづきをこうてひとまともまれしがどうおうりてすをあげてすみぬ名のたいとくい兄んをさゝげてきりなむ名よ為かれしてやりとれんをのべける

。もむ 乗之 仁徳紀 縦兵乗之（モムテ　モム古訓）殺数百人 雄略紀 為所乗（モミシナサレ）

。もてなやむ 桐壺三オ 人のもてなやみぐさになりて

二やむ 止 因九 久あるそ於秀緒非陰つ乞りしまてまうねふくまて[illegible]るは安（久安）きびの中山吋るるく 景上廿 天皇恥輟 輟（ヤミ 又） やめのふを聞ゆ[illegible]

やむ 病 国臨 去年夏上葉之病 波也年 又延乃出

。やくさむ 不平 記上 うちをこらあらひ不平（ヤクサミ）あそらし 神代巻 挙体不平（ヤクサミヨフ） 天武紀 不和（ヤクサム）

ガラス使用

。やせさらぼふ 瘦　崇沐紀（二十年） 髪ゝ髪ノ體瘦（ヤセカミニテ）

字下 瘦𦞂（ヤサカヒカレケテ） 垂仁紀 身ミ體毛瘦弱（ヤサカミヨワリ）

やすむ 休　是中十十 方ニ療不急 怠（ヤスム） 多変

やつれはむ 白宮十才 いとやつれはてゝありけるをハあはれき

・やとむ 敗（寓法）

・やゝむ 三宝 せゝ美めまれ 沼解一措 コゝロナケレキむし

ゆがむ 曲 国上十九 沙弥口喎斜 喎斜（カミチ）二合工 国 新撰字鏡 喎ハ由加牟 和名抄 喎久和 由賀無 国 喎ハ口蛙戾也由加牟 和名部アゲ 癖陂と字彼をてよかうふれ 〔名義抄 字彙ヲ見ヨ〕 一ノ四丁ニ 字もつまむとて いのちかくえこれやちりゝハの あてなるに とよろしハ芦ノ母と 悪筆とうて字音の悪筆を悪癖ニうけて まみしなりんなし

国 咃ハ徒阿徒陀二反 口斜 斜皃 口由加牟 又口比曾牟

ゆるむ 弛

よむ 讀 運字 讀（ヨム）ー看 誦（ト）ー暗

・よむ 計ヲ

---

よどむ 淀 運字 澱（ヨドム）水

・よくむ 舌ノモツルヽ皃 用四ノ巻 老ほよ舌出てよ余年もと

・さしはさむ 色ゝ皃 挾 ワハセム 劍 相 鋏（已上同）

・えぐむ 宇治拾 十二ノ十四 きらりたるきぬをぬきてとらせ小刀もあれ
りりてうきいろの衣のいゑしうゑりしたをとらせられ
二ちゑぐりてくいつくろえてつきつみきそえてさちさりぬ
室町物語上三 廿八丁オ らうう中将のあそびハーゝのちうゐをきてみるらいゑぐりて
いーらるめりし

・えごむ 室町 花写下 廿三丁 このよみハつまんもえうちてぬ 美し のちのよを
こゝをしゞもとゑぐりてをいるをもてあいれと思ふ

831
14
12

五四 ・あひしらふ かげろふ日記中 みちあづきもせちなあひしらひつゝ さしぐむ

・いちびるし [illegible] 横太刀のへつらひかはよろくやまずして

・あらそふ 栄花物語 押しこりて [illegible]

ゑむ 笑 字 嗎 許延反 笑貌 又恵元反 和良不

はらむ

かゝふむ 帚布 [illegible]

・ねがむ 拜 史記孔子世家 上もう 揖（ネガミ） 許（ツヅラノ）云ゝ 揖 説文 拜手下手也 周礼 疏注 但俯下手 今時揖是也 鄭注 即今之揖

・をとしむ [illegible] 五九才 [illegible]

---

なむ 惜 又 愛

・をどむ 淀 神代紀 此ヲ云 訓 淤等美 浮借据上（シドミ）乃水 注釈云 [illegible] 淀（ヨドミ） 今も此伊勢人などは 水のよどむをも大事の [illegible] おきまるをも をどむ といへり

・をやむ 小止 堀河 [illegible] 後拾 [illegible] 中務集 [illegible] をやみなく [illegible]

831
14
12

831
14
12

をろがむ拜

○あり居あり來るなどいふに、あるひでまでくの活用はいあるを又圀もごとしの云の分けて傍（けしからぬ）比擬とありさていはゆる中二段の活きさるるれを活く詞のするものあしされバこハ迴ちるナ」（望六巻　古事記ハ中二段下二段二ツニ分ケアリトセリ）

831
14
12

ガラス使用